

炭鉱地域の環境再生・地域活性化計画に関する研究

パシフィックコンサルタンツ株式会社 勝木安美

1. 研究概要

近年、持続可能な都市を構築することが求められる中、地域資源の大切さが見直され、多様な個性のある街は評価される傾向にある。そして、その場所にしかない掛け替えのない風景を創出するためには、街の歴史や風土、文化は様相を変えながら継承されることが、今後重要性を増すと考えられる。

本研究では、“Industrial Nature(産業的自然)”という新しい自然の概念の視点から、産業遺産を活用したドイツと日本の地域づくりを比較・分析し、Industrial Nature が現れる要素・要因を明らかにすることを目的とする。“Industrial Nature(産業的自然)”とは、ドイツ発祥の概念で、放置された産業地に元々ある自然を回復するのではなく、人の活動が介在した後に生まれる植生や産業時代の残った遺構など、全てを含めて自然と捉えようという概念である。

対象プロジェクトは、ドイツ NRW 州ルール地域エムシャー川流域一帯における「IBA エムシャーパークプロジェクト(以下 IBA エムシャー)」と北海道空知産炭地域

の「元氣そらち!産炭地域活性化戦略(以下そらち戦略)」である。日本と共通の都市課題を持ち、持続可能な都市発展に関して先進国であるドイツの地域づくりは、今後日本の地域づくりにおける展開可能性を示す上でとても重要であると位置付ける。

2. IBA エムシャーとそらち戦略の実態把握

まず、IBA(国際建設博覧会)とは、ドイツで100年以上の歴史を持つ持続可能な都市・地域に関する開発手法である。IBA エムシャー(1989~1999)とは、エムシャー川の再生とともに産業遺産を活用し、地域全体を活性化するための事業であり、10年間で計123のプロジェクトが実施された。IBA エムシャーの計画は、全体計画と、より具体的な事業に言及した方針テーマ別計画の2種類存在する。IBA エムシャーの目的、目標、方針テーマ、実践意義、戦略の関係性を[図1]に示す。実践意義は、方針テーマや戦略と複雑に関係しており、目的の環境、経済・社会に関する項目以外に幅広い項目(文化、社会、芸術)を含んでいることが、目標の豊かさの創出に繋がっている

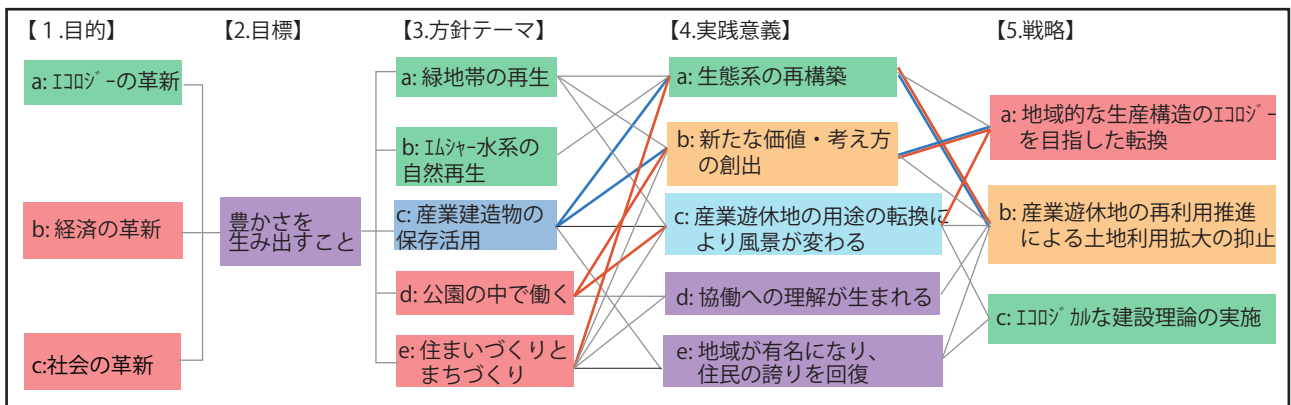


図1 IBA エムシャーの概要関係

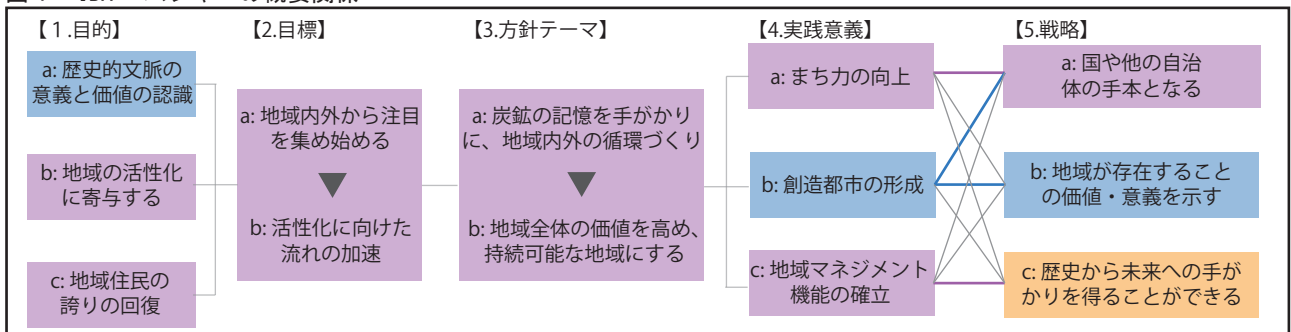


図2 そらち戦略の概要関係

凡例 ■; 環境 ■; 経済・暮らし ■; 文化 ■; 産業遺産 ■; 社会 ■; 芸術 ■

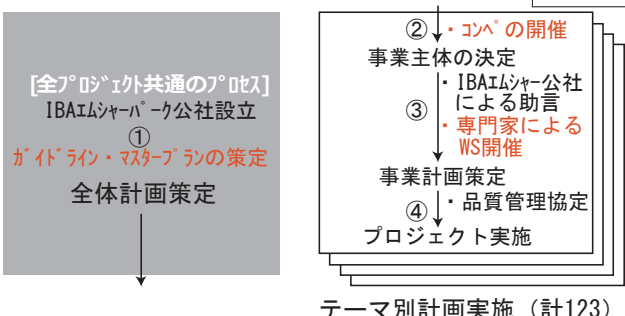


図3 IBA エムシャーの実施プロセス

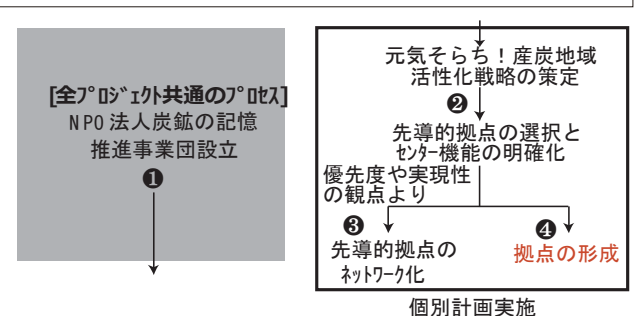


図4 そらち戦略の実施プロセス

ると考えられる。また、IBA エムシャーの実施プロセスを[図3]に示す。IBA エムシャーは、方針テーマに沿って同時多発的に実施し、全体が1つのプロジェクトとして機能するために6つの原則を設けている。

一方そらち戦略は、NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団(以下 NPO 炭鉱)の協力の下、民間主導による活動自立化を促進するため、空知支庁によって策定された地域再生のマスタープランである。そらち戦略の目的、目標、方針テーマ、実践意義、戦略の関係性を[図2]に示す。そらち戦略は、地域活性化のための全体計画ではなく、炭鉱の記憶という1テーマによって持続可能な地域にする具体的なプロセスを示す個別計画のみ存在していることがわかる。また、そらち戦略の実施プロセスを[図4]に示す。そらち戦略は、1つ1つのプロジェクトの独立性よりも、全体のプロセスやネットワークを重視している。

3. Industrial Nature を導入した具体的事例

Industrial Nature の考え方を導入した具体的事例から、この考え方が実際どのように現れているのかを検討する。

IBA エムシャーは Landschaftspark Duisburg Nord を取り上げ、ランドスケープデザイナー Latz の考えをもとにしたデザインコンセプト、デザイン、意義、成果の関係を[図5]に示す。この事例は、環境再生の1つの手段として Industrial Nature を導入した事例で、鉄製錬所を稼働時の産業建造物を保存し、そこにランドスケープ・デザインを施し再整備した自然公園であり、様々なリクリエーションのための用途へ転換された。

そらち戦略は幌内炭鉱景観公園を取り上げ、活動内容、意義、成果の関係を[図6]に示す。この事例は、地域再生に向けて炭鉱遺産を活用しようと、住民の手により景観公園として整備が進められており、ランドスケープとアートの融合を目指す道を模索している。

Landschaftspark Duisburg Nord は、環境破壊が大きな問題となっており、デザインコンセプト～成果の全てが Industrial Nature に関係している。一方幌内炭鉱景観公園は、豊かな自然を持ち、専門的な立場からの具体的な提言、順路の整備による価値創造・表現へのステップアップ、景観公園としての整備による炭鉱遺産の必要

性と可能性の両立という点において Industrial Nature が現れている。両事例は、産業遺産の残っている規模もその土地の自然環境も異なる。ゆえに、Industrial Nature という同じ概念を導入しているが、具体的なデザインや取り組みが異なり、それによって Industrial Nature の現れかたも変わってくる。

4. 結論

各計画を具体的事例より分析すると、IBA エムシャーは、Industrial Nature を創出する要素は全体計画とテーマ別計画の相互に支えられ、Industrial Nature が創出される構造計画になっている。一方そらち戦略は、テーマ計画の中だけで完結しており、Industrial Nature の要素の支えが弱いということがわかった。ゆえに、Industrial Nature とは普遍的な自然の概念であるが、計画や実施プロセスが異なるため、その土地ごとに Industrial Nature の現れかたは大きく異なると言える。

5. 展望

今後の展望としては、Industrial Nature をより創出するためにも、また、地域資源を活かした街づくりを進めるためにも、IBA エムシャーに習って横断的なテーマを対象とし、各プロジェクトを全体計画の中に位置づける必要があると考える。また、地域が主体となって取り組み、地域資源の存在を顕在化するランドスケープを人間の手を加えることによって形成することで、多くの人々に愛着を持って利用される空間が生まれると考える。

【参考文献】

- ・ 欧援 <http://www.elfferding.de/profile.html>
- ・ 都市環境デザインセミナー
- ・ そらち「炭鉱の記憶」ガイドマニュアル, NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団
- ・ 炭鉱遺産でまちづくり, 吉岡宏高, 2005.7
- ・ 元気そらち! 産炭地域活性化戦略, 空知総合振興局, 2009
- ・ 明るい炭鉱, 吉岡宏高, 創元社
- ・ Landschaftspark Duisburg-Nord HP
- ・ 市民の手でつくる幌内炭鉱景観公園のパフレット, NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団

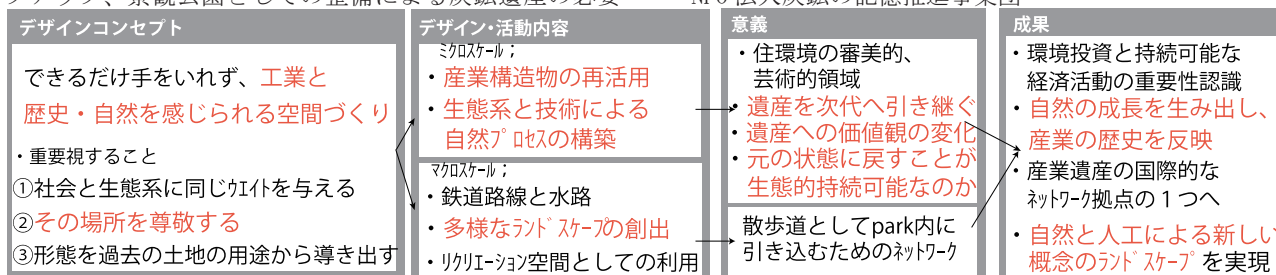


図5 Landschaftspark Duisburg Nord のデザイン、意義、成果の関係

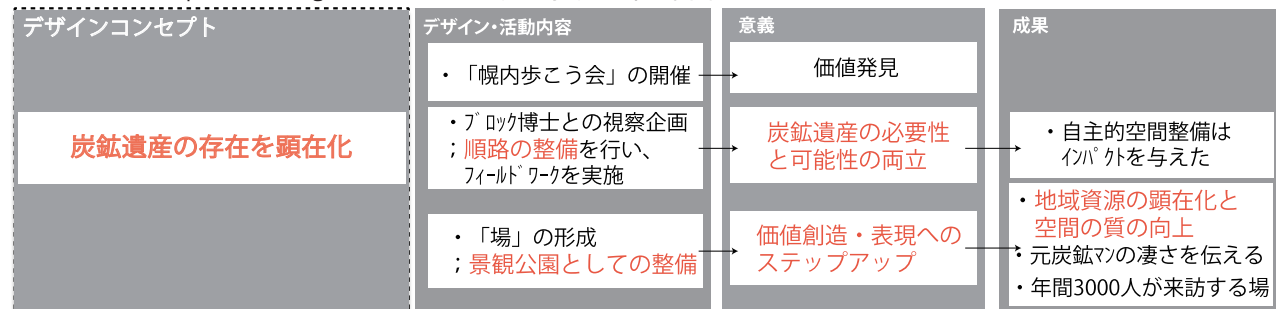


図6 北炭幌内景観公園の活動内容、意義、成果の関係